



麻酔って何？

普段から健康に留意していても、病気やケガのみならず、出産や検査に当たって、海外で麻酔を受ける機会がないとはいえません。急に麻酔が必要になったときに慌てないよう、安全に麻酔を受けていただくためのポイントなどについて、3回に渡ってお話したいと思います。

第1回は「麻酔はこわくない！」というテーマでお話します。

Text by 欧州日本人医師会 福井公子 医師/麻酔科 (マインツ ドイツ)

+ 麻酔は安全？

麻酔に対して、皆さんはどのようなイメージを持っているでしょうか。「全身麻酔＝手術中に眠ること」とはわかっているけど、それ以上に詳しくご存じの方は少ないのではないかと思います。また知られていないが故に「手術の途中で目が覚めてしまうのではないか」とか、逆に「手術が終わっても麻酔が覚めないのではないか」と不安に感じる方も多そうです。でも、どうぞご安心ください！ 私たち麻酔専門医は、患者さんを眠らせるだけでなく、心臓や呼吸はもちろん全身の状態を観察し、必要に応じて治療を行い、患者さんが無事に手術を乗り切ることができるよう、手術中は付きっきりで見守っているのです。

麻酔専門医になるためには5年以上専門のトレーニングを受け、麻酔のことだけでなく救急医療・集中治療・痛みのケアも熟知していなければなりません。また、麻酔に用いられる薬や医療機器は日進月歩で、より安全なものが使われるようになっており、麻酔だけが原因となる事故はほとんど起こらないといわれています（麻酔に当たって重大な合併症が起こる確率は1万人中約3人、死亡に至る確率は10万人に約1人と報告されています）。

+ 麻酔にはどんな種類がある？

麻酔科医が関わる麻酔には、全身麻酔と部分麻酔があります。全身麻酔は、上でも述べたように「手術中眠ってしまう麻酔」です。麻酔薬を点滴から投与したり、気体の麻酔薬を吸っていただくことで患者さんを深く眠らせます。手術の痛みがわからなくなるほど深く眠らせると呼吸がほぼ止まってしまうので、患者さんが眠ってしまった後で気管の中や喉の奥に管を入れ、機械的に人工呼吸を行います。この管は、手術後ある程度麻酔が覚めて呼吸が戻ってくると抜いてしまいますので、患者さんが気が付くことはほぼありません。よくある誤解ですが、麻酔薬やガスは1回だけではなく手術が終わるまで継続して投与するので、途中で目が覚めてしまうということはまず起こりません。

一方、部分麻酔は欧米で多用されている無痛分娩のカテーテルや虫垂炎の手術で用いられる、「下半身麻酔のため背中にする注射」で知られているかもしれません。部分麻酔ではターゲットとなる神経の周囲に局所麻酔薬を注入し、部分的に麻痺させるようにします。よって通常は意識が残りますが、状況に応じて鎮静薬を併用して軽く眠っていただくこともあります。手術の規模や部位によっては、全身麻酔と部分麻酔を組み合わせることもあり、部分麻酔のカテーテルを入れた場合には、手術の後もそこから痛み止めの薬を流すこともあります。

いかがでしょうか？ 麻酔のことを少しでも知っていただけたでしょうか。次回は手術が決まってから実際に麻酔を受けるまでの準備についてご説明します。



欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

(ご注意：診察ではありません)

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など慣れない海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

● 健康相談日時：火・水・木曜日

(ヨーロッパ中央時間)	水・木曜日	21:00 - 22:00
	火曜日	22:00 - 23:00
(イギリス/アイルランド)	水・木曜日	20:00 - 21:00
	火曜日	21:00 - 22:00

● 電話番号：+49 9951 9493 399

※この電話番号は相談専用電話のため、上記の時間以外には使えませんのでご注意ください。

無料健康相談担当医師一覧は以下のサイトでご確認ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>